

SOSネットワークを用いた訓練について

11月号でご紹介した「鏡野町SOSネットワークメール」について、実際に行方不明が発生した想定で訓練を行いました。

行方不明となった方の顔写真（事前に本人の同意のもと登録）や、行方不明になったときの服装等を記載したメールを基に、搜索から発見までの一連の手順を確認しました。

訓練後の検討会議では、良かった点も挙げられた一方、情報の更新やメール本文の内容がわかりづらい等、改善すべき点も挙げられ、今後当事業がより良いものとなるよう活発な意見交換が行われました。

鏡野町在宅医療・介護連携事業推進協議会より訓練に参加した宇佐美真太郎委員より

訓練が始まり、SOSネットワークメールが配信されました。ただしメール内のリンクがわかりにくく、個人情報の閲覧ページに飛ぶまで時間がかかってしまいました。

対象者は鏡野町文化スポーツセンター周辺にて行方不明ということで、ちょっとした刑事ドラマの主人公になった気分です。直ちに現場に向かいます。

対象者の方の人相、着ている服の色、身体的特徴などを勘案しながら、あたりを搜索していると…本人を発見しました。

さあ声掛けをしてみましょう。本人（役の人）は少しおびえています。それは当然でしょう。本人さんはうららかな秋の日の午後に散歩してただけなのに、たくさんの見ず知らずの人に話しかけられているからです。

ですがなかなかどうして、地区の参加者の方々の認知症の方に対する対応力は見事なものです。相手のことを否定せず、まずはしっかり耳を傾け、安心させています。鏡野町の地域介護力は大したものです。

対象者を保護し、無事搜索完了のメールが流れて訓練は終了となりました。



写真：訓練における発見時の様子

私個人が今回の訓練において感じたことですが、もう少し参加できる人数を増やして、大規模な訓練にしてもよいのかなと思いました。全体的な搜索の流れを体験するのが前提として行われていると思いますが、範囲を広くするとか、設定をもう少し細かく作りこむなどの変化があってもよいかなと思いました。また、認知症の方々は本当に変化に富んでいるので、一人ひとり特徴を見極め、その人に合った対応をしていくことが必要です。こちらもそういった方々にうまく対応できる技術を、福祉関係者以外の方々にも周知していければと感じました。

■お問い合わせ先

鏡野町保健福祉課 介護保険係 担当：和田 電話(0868)54-2986 FAX(0868)54-2891